

厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業
特定疾患の疫学に関する研究班
平成 15 年度研究業績集

2004 年 3 月 31 日発行

主任研究者 稲葉 裕
事務局 〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1
順天堂大学医学部衛生学教室
担当者 黒沢美智子、岩佐真佐子
電話：03-5802-1047 FAX: 03-3812-1026

20030819 (追補)

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業

特定疾患の疫学に関する研究
平成15年度総括・分担研究報告書
(追補)

主任研究者 稲葉 裕

平成16(2004)年3月

目 次

8. その他

- (8) 継続受給者の受療施設についての検討 154
仁科基子、柴崎智美、太田晶子、石島英樹、泉田美知子、淵上博司、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）
- (9) 医療受給者の性比の検討 163
柴崎智美、仁科基子、太田晶子、石島英樹、泉田美知子、淵上博司、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）
- (10) 全身性エリテマトーデスの性比の変化の特徴 172
柴崎智美、仁科基子、太田晶子、石島英樹、泉田美知子、淵上博司、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）
- (11) 地域保健・老人保健事業報告を基にした
2000年度全国特定疾患受給者数 177
太田晶子、仁科基子、柴崎智美、石島英樹、泉田美知子、淵上博司、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

本刊は「特定疾患の疫学に関する研究班 平成 15 年度総括・分担研究
報告書」の 154 頁～189 頁までの追補とする。

継続受給者の受療施設についての検討

仁科基子、柴崎智美、太田晶子、石島英樹、泉田美知子、淵上博司、永井正規
(埼玉医科大学・公衆衛生学)

研究要旨

特定疾患治療研究医療受給者(1984年度、1988年度、1992年度、1997年度)全国悉皆調査の過去4回のリンケージデータを用い、医療受給者の受療医療機関と受給継続期間の関係、また13年間継続受給者の受療医療機関の規模および受療地の変化、同一医療機関受療割合について検討した。

大学病院および大規模一般病院で受療した者は、小規模の病院で受療した者よりその後の受給継続期間が長かった。

13年間継続受給していた者では、受給の継続時間とともに大学病院受療割合が低下(84年度31.7%、97年度25.8%)、診療所受療割合が増加(84年度9.1%、97年度13.5%)、住居地と同一市町村での受療が増加(84年度39.0%、97年度42.3%)した。この傾向は、性・年齢別、疾患別にみても同様であった。

13年間継続受給者の同一機関継続受療割合は4年間で約80%、8年間で約70%、13年間同一機関受療割合は約60%であった。13年間同一医療機関割合は、医療機関の規模別には400-499病床で高く、200病床未満の病院で低かった。また、この割合は住居地と同一市町村で受療する者が高かった。同一医療機関受療割合が低い筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病では受給の継続時間とともに大学病院受療割合の低下、住居地と同一市町村での受療の増加が著しかった。

キーワード：特定疾患、全国調査、医療受給者、医療機関、受療動向 継続率、リンケージ

はじめに

特定疾患の疫学に関する研究班は、過去4回(1984年度、1988年度、1992年度、1997年度)の特定疾患医療受給者を対象)全国悉皆調査を行った^{1)~4)}。その結果、年々医療受給者数の増加、高齢化が認められた。受療動向としては年次とともに、大学病院で受療する割合の低下、小規模医療機関への受療の拡大が認められ、地域における保健、医療の充実が示唆された。

今回、4回の全国調査のリンケージデータ⁵⁾を用い、医療受給者の受療医療機関と受給継続期間の関係について検討すること、また、13年間継続受給者(84,88,92,97年度受給)の受療医療機関の変化、同一医療

機関継続受療割合を明らかにすることを目的とした。

資料と方法

1. 資料

資料として、1984年度、1988年度、1992年度、1997年度特定疾患治療研究医療受給者全国悉皆調査の過去4回のリンケージデータ⁶⁾を用いた。調査項目は疾患名、受給者番号、性、年齢、住居地市区町村、給付開始年、受療医療機関コード(4年度共通病院コード)などである。受療医療機関は主な受療医療機関ひとつである。受療医療機関が診療所の場合は所在地市区町村のみで施設名は調査していない。

2. 解析方法

(1) 受療医療機関と受給継続期間の解析

医療受給者証の交付手続きは年度ごとに行われ、受給者によっては医療受給の中止・開始が繰り返される可能性があるが、1984年度受給者を対象として84,88,92,97年度に受給した者を13年継続、84,88,92年度に受給し、97年度は非受給の者を8年継続、84,88年度に受給し92,97年度は非受給の者を4年継続、84年度に受給し88,92,97年度は非受給の者を継続なしとして受給継続期間を定め(表1)、受療医療機関の規模および受療地別に受給継続状況を性・年

齢階級別、疾患別に検討した。さらに、1988、92年度受給者を対象として、同様の方法で解析をした。

(2) 13年間継続受給者の受療動向の解析

84,88,92,97年度に受給した13年間継続者(表1)の内、いずれかの年度が医療機関不明者を除いた34,325人を対象として受療医療機関の規模、受療地の変化、同一医療機関継続受療割合および転院状況について受療医療機関の規模、受療地、性・年齢階級疾患別に検討した。

表1 1984、88、92年度受給者の継続期間の設定方法および継続者数、継続者割合

調査年度	84	88	92	97	全受給者数		新規受給者数	
1984年度受給者	○	?	?	?	101,076	100.0%	34,544	100.0%
13年継続	○	○	○	○	43,088	42.6%	13,952	40.4%
8年継続	○	○	○	×	12,051	11.9%	3,789	11.0%
4年継続	○	○	×	×	13,412	13.3%	4,445	12.9%
継続なし	○	×	×	×	26,635	26.4%	10,173	29.4%
中止後再開					5,890	5.8%	2,185	6.3%
	○	○	×	○				
	○	×	○	○				
	○	×	○	×				
	○	×	×	○				
1988年度受給者	?	○	?	?	159,231	100.0%	29,831	100.0%
9年継続	?	○	○	○	86,134	54.1%	13,170	44.1%
4年継続	?	○	○	×	28,451	17.9%	5,347	17.9%
継続なし	?	○	×	×	41,085	25.8%	10,544	35.3%
中止後再開	?	○	×	○	3,561	2.2%	770	2.6%
1992年度受給者	?	?	○	?	202,670	100.0%	30,106	100.0%
5年継続	?	?	○	○	139,136	68.7%	17,448	58.0%
継続なし	?	?	○	×	63,534	31.3%	12,658	42.0%

集計対象は1984年度受給者104,771人のうち医療機関不明を除く、101,076人(96.5%)。

集計対象は1988年度受給者173,637人のうち医療機関不明を除く、159,231人(92.1%)。

集計対象は1992年度受給者247,726人のうち医療機関不明を除く、202,670人(84.4%)。

○：受給

×：非受給

？：受給または非受給

結果

1. 受療医療機関と受給継続期間

1984年度(新規)受給者の受療医療機関

の規模別継続状況を表2、図1に示した。1984年度に大学病院で受療した者は、その後の受給継続期間が長く、小規模の病院で受療した者は、その後の受給継続期間が短

く、受給を中止する者の割合が高かった。

この結果は受給継続率に影響を与える性、年齢、疾患別⁹⁾にみても同様であった。また1988,1992年度(新規)受給者を対象にした結果も同様であった。

2. 13年継続受給者の受療医療機関の規模、受療地の変化

13年継続受給者は、受給継続時間とともに大学病院で受療する割合が低下、診療所で受療する割合が増加した。受療地は県外での受療が減少し、同一市町村での受療が増加した。(図2) この傾向は、疾患別にみても同様だった。(表3)

13年間継続受給者の大学病院で受療する割合を全受給者、新規受給者と比較すると受給継続時間とともにこの割合は低下しているが、各年度とも全受給者、新規受給者より高率であった。(図3)

3. 13年間同一医療機関受療割合および転院状況

13年間同一医療機関で受療した者の割合は59.0%であり、医療機関の規模別にみると400-499病床63.1%で高く、200病床未満の病院で低かった。また住居地と同一市町村で受療する者でこの割合が高かった。(表4)

性・年齢階級別にみると13年間同一医療機関継続受療割合は男女とも60歳以上(54%)で低かった。(表5)

疾患別にみると11結節性動脈周囲炎(70.8%)、15天疱瘡(70.4%)、25ウェゲナー肉芽腫症(68.8%)、6再生不良性貧血(66.3%)で高かった。16脊髄小脳変性症(43%)、20パーキンソン病(42%)、23ハンチントン舞蹈病(26%)で低かった。(表6)

88年度に84年度と異なる施設を利用した者(6,618人)の転院状況としては、88,92,97年に同規模の施設に転院した者は8.6%、規模の大きな施設へ転院した者は28.2%(大学病院9.7%)、小規模の施設へ転院した者は34.2%(診療所13.5%)であった。(表7)

疾患別にみても、小規模の施設へ転院した者は規模の大きな施設へ転院した者より多かった。

考察

1. 受療医療機関と受給継続期間

大学病院および大規模病院で受療した者は、小規模の病院で受療した者よりその後の受給継続期間が長い理由としては、大学病院または専門病院の方が難病患者の受け入れ、その後のフォローアップ体制がきちんとしている、また、診断書を書いてもらいやすいなど受給継続手続きがとりやすいことなどが考えられる。また、本研究の13年間継続受給者の受療動向の結果から、疾患の罹病期間が長期になると身体活動能力が低下し、住所地近くの小規模医療機関を受療することが多くなっていると考えられ、医療機関の規模によって疾患の重症度に違いがある可能性がある。今回、新規受給者についても解析したが、その罹病期間、過去の受給状況は明らかでない。

今後、特定疾患調査解析システムのデータを用い、疾患の病型、重症度、罹病期間、受給中止理由、予後などを検討し、継続状況、受療状況について考察する必要がある。

2. 13年間継続受給者の受療動向

13年間継続受給者は継続期間の短い受給者、また全受給者、新規受給者と比較しても大学病院で受療する割合が高く、その後、13年間大学病院で受療を続ける割合は約70%であり高率に推移していた。また、受給の継続時間とともに診療所、住居地の近くで受療する者が増えており、特に神経難病患者においては変化が顕著であった。

特定疾患に関しては、患者及び保健・医療関係者への公費負担制度の普及、難病の診断、治療に対する知識の普及、情報の公開、また国の神経難病患者在宅医療支援などの地域支援推進対策が年々進んでおり、これが受療動向に大きく関与していると考えられる。

文献

- 1) 柳川洋, 中村好一, 長谷川央子編: 特定疾患治療研究医療受給者調査報告. 厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班, 1986.
- 2) 柳川洋, 中村好一, 橋本勉, 他編: 特定疾患治療研究医療受給者調査報告書(1988年度分)その1. 基本的な集計解析.

厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班，
1990.

3) 柳川洋，中村好一，橋本勉，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1988年度分）その2. 受療動向に関する集計解析. 厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班，1991.

4) 永井正規，中村好一，阿相栄子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1992年度分）その1. 基本的集計. 厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班，1995.

5) 永井正規，中村好一，阿相栄子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1992年度分）その2. 受療動向に関する集計. 厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班，1996.

6) 永井正規，淵上博司，仁科基子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1997年度分）その1. 基本的集計. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班，2000.

7) 永井正規，淵上博司，仁科基子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1997年度分）その2. 受療動向に関する集計. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班，2001.

8) 淵上博司，永井正規，仁科基子，他編：難病患者の受療動向 1997年度特定疾患医療受給者全国調査の解析. 日本衛生学雑誌，2003. Vol58, No.3:357-368.

9) 永井正規，淵上博司，仁科基子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査からみた受給者の継続状況 リンケージデータを用いた集計. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班，2002.

表2-1 1984年度受給者の各調査年度までの継続者数、継続者割合(%)、受療医療機関の規模別

受療医療機関の規模	1984年度受給者数		13年継続		8年継続		4年継続		継続なし		中止後再開	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)
大学病院	28,692	(100)	14,044	(48.9)	3,280	(11.4)	3,599	(12.5)	6,225	(21.7)	1,544	(5.4)
500床以上	21,103	(100)	8,811	(41.8)	2,578	(12.2)	2,776	(13.2)	5,642	(26.7)	1,296	(6.1)
400-499床	8,941	(100)	3,641	(40.7)	1,071	(12.0)	1,194	(13.4)	2,483	(27.8)	552	(6.2)
300-399床	10,753	(100)	4,408	(41.0)	1,242	(11.6)	1,408	(13.1)	3,087	(28.7)	608	(5.7)
200-299床	8,822	(100)	3,458	(39.2)	1,014	(11.5)	1,187	(13.5)	2,592	(29.4)	571	(6.5)
100-199床	7,275	(100)	2,707	(37.2)	894	(12.3)	1,041	(14.3)	2,226	(30.6)	407	(5.6)
99床以下	5,233	(100)	1,853	(35.4)	696	(13.3)	711	(13.6)	1,647	(31.5)	326	(6.2)
床数不明	474	(100)	183	(38.6)	46	(9.7)	63	(13.3)	143	(30.2)	39	(8.2)
診療所	9,783	(100)	3,983	(40.7)	1,230	(12.6)	1,433	(14.6)	2,590	(26.5)	547	(5.6)
合計	104,771	(100)	44,552	(42.5)	12,484	(11.9)	13,892	(13.3)	27,730	(26.5)	6,113	(5.8)

表2-2 1984年度新規受給者の各調査年度までの継続者数、継続者割合(%)、受療医療機関の規模別

受療医療機関の規模	1984年度新規受給者数		13年継続		8年継続		4年継続		継続なし		中止後再開	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)
大学病院	10,212	(100)	4,677	(45.8)	1,073	(10.5)	1,267	(12.4)	2,605	(25.5)	590	(5.8)
500床以上	7,259	(100)	2,845	(39.2)	871	(12.0)	911	(12.5)	2,172	(29.9)	460	(6.3)
400-499床	3,030	(100)	1,149	(37.9)	334	(11.0)	416	(13.7)	935	(30.9)	186	(6.1)
300-399床	3,718	(100)	1,481	(39.8)	397	(10.7)	486	(13.1)	1,145	(30.8)	209	(5.6)
200-299床	2,925	(100)	1,109	(37.9)	325	(11.1)	360	(12.3)	924	(31.6)	207	(7.1)
100-199床	2,461	(100)	885	(36.0)	248	(10.1)	343	(13.9)	834	(33.9)	151	(6.1)
99床以下	1,926	(100)	659	(34.2)	207	(10.7)	250	(13.0)	663	(34.4)	147	(7.6)
床数不明	207	(100)	81	(39.1)	17	(8.2)	19	(9.2)	70	(33.8)	20	(9.7)
診療所	2,816	(100)	1,066	(37.9)	317	(11.3)	393	(14.0)	825	(29.3)	215	(7.6)
合計	34,544	(100)	13,952	(40.4)	3,789	(11.0)	4,445	(12.9)	10,173	(29.4)	2,185	(6.3)

図1 1984年度(新規)受給者の各調査年度までの継続状況、受療医療機関の規模別

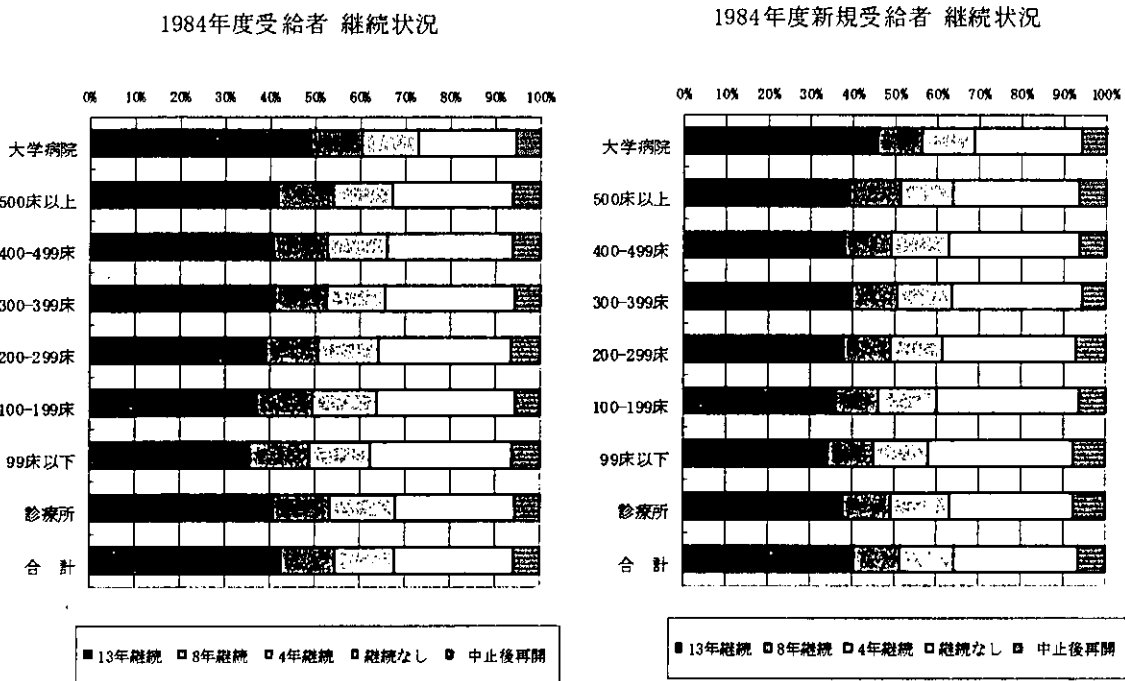
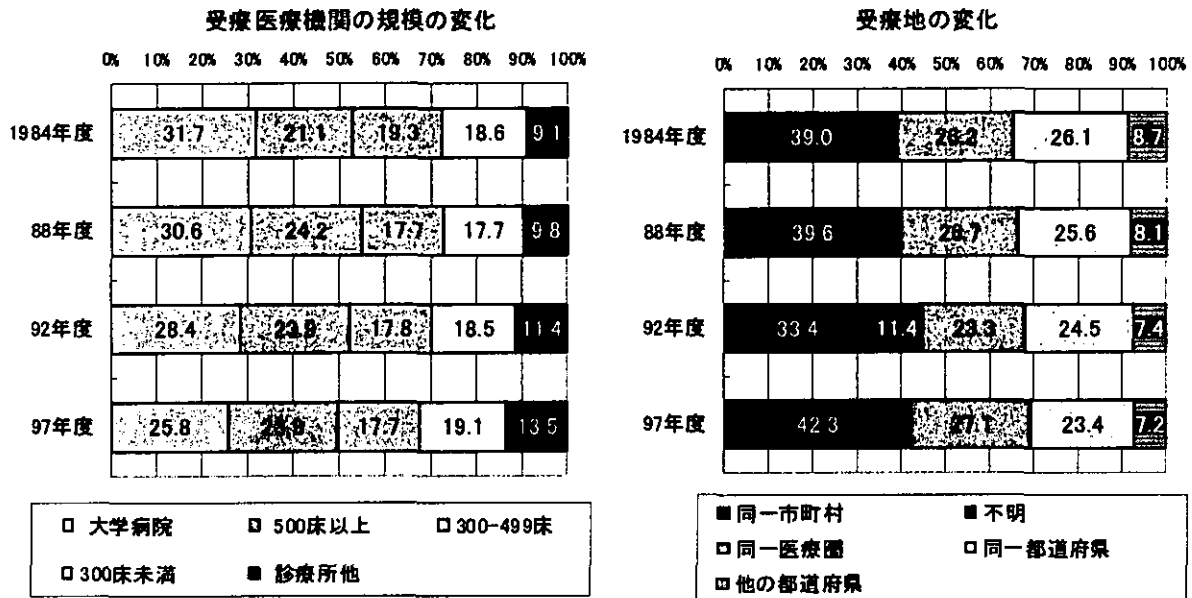
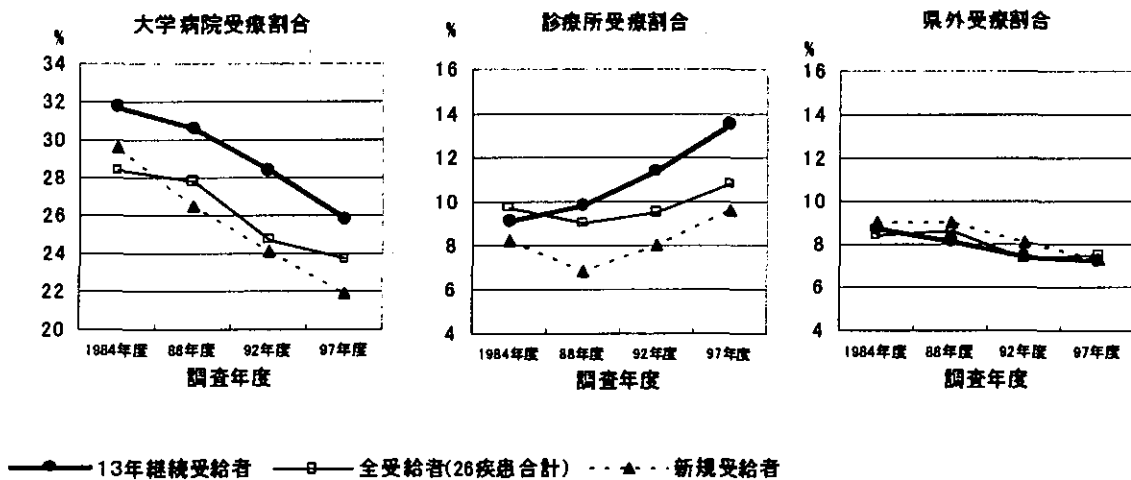


図2. 13年継続者（84.88.92.97年度受給者）の受療医療機関の規模および受療地の変化



集計対象はいずれかの年度が医療機関不明を除く、34,325人
1992年度の受療地不明は診療所で受療した者である。

図3. 大学病院、診療所、住居地都道府県外での受療割合、13年継続受給者・全受給者・新規受給者別



集計対象：
13年継続受給者はいずれかの年度が医療機関不明を除く、34,325人
1984年度全受給者数(26疾患合計) 101,076人、新規受給者割合 34.2%
1988年度全受給者数(26疾患合計) 159,231人、新規受給者割合 18.7%
1992年度全受給者数(26疾患合計) 202,670人、新規受給者割合 14.8%
1997年度全受給者数(26疾患合計) 331,920人、新規受給者割合 16.4%

表3. 13年継続者 (84.88.92.97年度受給者)の大学病院、診療所、他の都道府県での受療割合(%)、受療年度・疾患別

	(人)	大学病院				診療所				他の都道府県			
		1984年度	88年度	92年度	97年度	1984年度	88年度	92年度	97年度	1984年度	88年度	92年度	97年度
1 ベーチェット病	3,422	31.8	31.2	28.9	25.6	16.5	17.6	18.8	20.5	8.0	7.6	6.8	6.8
2 多発性硬化症	565	32.7	29.6	26.2	25.0	5.7	7.1	8.8	11.2	10.3	8.8	9.0	8.3
3 重症筋無力症	1,736	39.2	38.2	35.4	32.1	8.1	8.4	9.3	10.9	12.6	11.8	10.1	10.4
4 全身性エリテマトーデス	8,503	35.3	34.6	32.7	29.8	6.0	6.5	8.5	10.9	8.8	8.4	7.7	7.8
5 スモン	880	10.2	10.0	7.7	8.8	25.1	24.7	25.2	27.2	3.0	2.5	1.7	2.2
6 再生不良性貧血	1,192	33.2	32.1	30.5	29.0	4.8	5.2	7.8	7.9	9.2	8.3	7.9	8.0
7 サルコイドーシス	1,199	39.5	37.7	35.6	34.2	5.8	6.6	8.3	10.4	8.0	7.3	6.8	6.4
8 筋萎縮性側索硬化症	115	28.7	21.7	18.3	13.9	8.7	13.0	13.9	17.4	5.2	5.2	4.3	2.6
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	2,574	41.2	39.4	36.5	32.1	6.7	7.2	9.2	11.5	12.6	11.5	10.6	9.9
10 特発性血小板減少性紫斑病	1,762	33.1	32.1	30.8	28.3	4.9	4.7	6.7	9.5	8.3	7.8	7.8	7.3
11 結節性動脈周囲炎	178	36.0	34.3	31.5	29.8	10.7	11.2	12.4	12.9	7.9	7.9	7.3	7.3
12 潰瘍性大腸炎	3,328	19.9	20.9	19.1	18.3	8.8	10.4	13.5	16.1	6.4	6.2	5.5	5.6
13 大動脈炎症候群	1,234	39.6	37.8	34.8	31.8	8.7	7.8	10.2	11.0	11.3	10.6	10.8	10.0
14 ビュルガー病	1,635	25.0	23.4	20.6	18.8	11.4	12.0	13.3	14.8	8.0	7.5	5.9	6.2
15 天疱瘡	257	47.9	46.3	43.2	38.9	10.1	10.5	10.5	10.9	12.8	12.8	12.1	12.5
16 脊髄小脳変性症	734	36.0	30.4	25.9	20.4	8.0	9.8	10.4	14.4	9.5	8.6	6.5	6.3
17 クロウン病	926	29.8	29.0	28.0	25.9	5.0	5.9	8.0	10.2	9.0	8.2	8.2	8.1
18 劇症肝炎	6	66.7	66.7	50.0	50.0	16.7	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7
19 悪性関節リウマチ	520	20.8	17.1	18.5	17.5	22.3	22.5	20.0	24.0	6.7	5.6	5.2	4.6
20 パーキンソン病	2,373	22.6	21.4	18.4	15.0	13.9	14.5	14.0	15.8	7.0	6.2	4.8	4.7
21 アミロイドーシス	22	40.9	40.9	36.4	27.3	0.0	0.0	9.1	9.1	4.5	9.1	4.5	0.0
22 後縦靭帯骨化症	545	24.6	20.7	20.6	18.0	10.1	12.3	11.7	15.0	7.2	5.7	6.1	3.7
23 ハンチントン舞蹈病	23	47.8	26.1	21.7	13.0	4.3	0.0	8.7	13.0	8.7	4.3	4.3	0.0
24 ウィリス動脈輪閉塞症	491	32.2	33.4	32.2	28.9	2.6	3.3	3.7	4.9	7.5	7.3	9.0	7.9
25 ウェゲナー肉芽腫症	32	43.8	46.9	43.8	37.5	3.1	3.1	3.1	3.1	21.9	21.9	18.8	21.9
26 特発性拡張型心筋症	73	26.0	27.4	24.7	20.5	11.0	9.6	17.8	20.5	5.5	4.1	5.5	6.8
合計	34,352	31.7	30.6	28.4	25.8	9.1	9.8	11.4	13.5	8.7	8.1	7.4	7.2

集計対象はいずれかの年度が医療機関不明を除く、34,325人

表4. 13年継続者の同一医療機関継続割合(%),1984年度の医療機関の規模、受療地別

	受給者数 (人)		13年間同一 (84.88,92.97年度)	9年間同一 (84.88,92年度)	4年間同一 (84.88年度)	異なる医療 機関
合計	34,325	100	59.0	10.6	11.1	19.3
医療機関の規模						
大学病院	10,870	100	61.7	10.1	11.6	16.6
500床以上	7,251	100	59.7	12.6	11.1	16.5
400-499床	3,005	100	63.1	10.3	8.1	18.5
300-399床	3,605	100	60.3	10.7	11.2	17.8
200-299床	2,719	100	56.7	10.4	11.4	21.4
100-199床	2,253	100	54.9	10.6	10.7	23.9
99床以下	1,412	100	44.8	13.3	13.2	28.7
診療所	3,121	100	54.1	7.0	11.2	27.7
受療地						
同一市町村	13,390	100	62.0	9.6	10.3	18.0
同一医療圏	9,010	100	61.2	11.0	11.1	16.7
同一都道府県	8,943	100	55.4	11.6	12.2	20.9
他の都道府県	2,982	100	49.4	11.3	11.3	28.0

表5. 13年継続者の同一医療機関継続割合(%),1984年度の性・年齢階級別

		受給者数 (人)		13年間同一 (84.88,92.97年度)	9年間同一 (84.88,92年度)	4年間同一 (84.88年度)	異なる医療 機関
男	0-9	275	100	59.6	9.5	11.3	19.6
	10-19	608	100	57.1	9.0	11.0	22.9
	20-29	1,022	100	57.2	9.4	11.3	22.1
	30-39	1,705	100	57.0	10.1	11.2	21.7
	40-49	1,930	100	62.6	8.8	9.8	18.9
	50-59	2,241	100	58.5	11.1	10.2	20.2
	60-70	927	100	57.2	12.2	10.4	20.3
	70-	54	100	50.9	11.3	9.4	28.3
	合計	8,762	100	58.7	10.1	10.5	20.7
女	0-9	341	100	65.4	8.5	9.1	17.0
	10-19	1,346	100	52.9	11.7	13.2	22.2
	20-29	2,874	100	54.5	10.9	13.0	21.5
	30-39	6,168	100	60.4	9.8	11.3	18.5
	40-49	6,417	100	62.5	10.2	9.7	17.6
	50-59	5,718	100	60.0	10.9	11.1	18.0
	60-70	2,547	100	53.8	13.7	13.5	19.0
	70-	152	100	43.1	17.4	6.9	32.6
	合計	25,563	100	59.1	10.8	11.3	18.8

表6. 13年継続者の同一医療機関継続割合(%),疾患別

	受給者数 (人)		13年間同一	9年間同一	4年間同一	異なる医療 機関
			(84.88.92,97年度)	(84.88.92年度)	(84.88年度)	
1 ベーチェット病	3,422	100	61.3	8.6	9.1	21.0
2 多発性硬化症	565	100	53.8	9.6	11.2	25.5
3 重症筋無力症	1,736	100	60.1	7.7	11.9	20.3
4 全身性エリテマトーデス	8,503	100	60.1	10.8	11.4	17.7
5 スモン	880	100	54.7	12.6	13.0	19.8
6 再生不良性貧血	1,192	100	66.3	10.8	9.1	13.8
7 サルコイドーシス	1,199	100	65.6	8.0	8.3	18.1
8 筋萎縮性側索硬化症	115	100	55.7	10.4	7.0	27.0
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	2,574	100	60.3	11.6	10.3	17.8
10 特発性血小板減少性紫斑病	1,762	100	64.0	9.8	10.0	16.2
11 結節性動脈周囲炎	178	100	70.8	4.5	7.9	16.9
12 潰瘍性大腸炎	3,328	100	59.3	11.5	11.7	17.4
13 大動脈炎症候群	1,234	100	64.1	9.5	9.5	16.9
14 ビュルガー病	1,635	100	60.6	9.4	10.0	20.0
15 天疱瘡	257	100	70.4	7.4	4.3	17.9
16 脊髄小脳変性症	734	100	43.3	14.3	12.5	29.8
17 クロウン病	926	100	56.5	10.7	9.6	23.2
18 劇症肝炎	6	100	50.0	0.0	33.3	16.7
19 悪性関節リウマチ	520	100	57.3	10.4	11.9	20.4
20 パーキンソン病	2,373	100	41.5	15.9	18.2	24.5
21 アミロイドーシス	22	100	59.1	9.1	13.6	18.2
22 後縦靭帯骨化症	545	100	56.0	10.1	8.8	25.1
23 ハンチントン舞踏病	23	100	26.1	8.7	21.7	43.5
24 ウィリス動脈輪閉塞症	491	100	64.2	6.9	9.8	19.1
25 ウェゲナー肉芽腫症	32	100	68.8	18.8	3.1	9.4
26 特発性拡張型心筋症	73	100	61.6	9.6	12.3	16.4
合計	34,325	100	59.0	10.6	11.1	19.3

表7. 88年度に84年度と異なる医療機関を利用した者の転院状況(%)

	受給者数(人)		88.92.97年度に 同規模医療機 関へ転院	88.92.97年度に規模の 大きな医療機関へ転院	88.92.97年度に規模の 小さな医療機関へ転院	その他		
				大学病院へ 転院(再掲)	診療所へ 転院(再掲)			
合計	6,618	100	8.6	28.2	(9.7)	34.2	(13.5)	28.9
84年度医療機関の規模								
大学病院	1,807	100	11.4	.	.	64.5	(15.6)	24.1
500床以上	1,200	100	18.2	10.1	(10.1)	41.5	(19.2)	30.3
400-499床	556	100	2.5	32.9	(18.5)	33.8	(16.5)	30.8
300-399床	642	100	8.7	30.9	(12.5)	30.4	(19.0)	30.1
200-299床	582	100	4.3	46.7	(14.9)	17.5	(10.3)	31.4
100-199床	538	100	5.4	43.3	(13.2)	15.1	(13.2)	36.2
99床以下	405	100	5.9	52.3	(18.0)	8.9	(8.9)	32.8
診療所	863	100	.	72.7	(11.7)	.	.	27.3

医療受給者の性比の検討

柴崎 智美、仁科 基子、太田 晶子、石島 英樹、泉田 美知子、
淵上 博司、永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

研究要旨

特定疾患医療受給者調査のリンケージデータを用いて、疾患別の性比の推移と受給継続率を観察した。過去の調査時に受給していない者、つまり古くから受給している者を除いた場合の性比は、年度を追う毎に高くなっており、また、受給継続期間が長い者ほど性比が低い傾向が見られ、新しく受給対象になった者では性比が高いというこれまでの結果を支持する結果が得られた。しかし、受給継続期間がほぼ同じ対象者についてみると、92年度以降の受給対象者では性比が上昇しない疾患もあり、性比の変化に疾患毎の特徴が見られた。疾患別に、性比が高くなっている疾患としては、クローン病、特発性拡張型心筋症のように性比がもともと高い疾患、全身性エリテマトーデス、悪性関節リウマチ、大動脈炎症候群などのように性比のもともと低い疾患など様々のものがあり、疾患によって性比を高くする要因が異なっていると考えられる。今後さらに臨床像の変化などを詳細に検討する必要がある。

はじめに

特定疾患の疫学に関する研究班では、受給者の実態を把握する目的で、受給者証の交付を受けた全ての患者を対象とした医療受給者全国調査を4回（1984年度、1988年度、1992年度、1997年度）実施し、基本的集計、受療動向に関する集計を報告してきた。その中で、医療受給者の性比が年度を追う毎に高くなっていることが報告された¹⁾。特に、性比の増加傾向の強い疾患としては、潰瘍性大腸炎、全身性エリテマトーデス、クローン病、特発性拡張型心筋症、後縦靭帯骨化症、悪性関節リウマチなどがあり、新規受給者に顕著である。これまでの報告では新規受給者の中には、過去には受給していたが、一度中止し、再開したものが含まれており、必ずしも全く初めて受給を開始した者を表しているわけではないことが明らかになった。そこで、本研究では、過去4回の医療受給者全国調査のリンケージデータを用いて、4回の調査のうち過去の調査で1度も受給対象となっていない受給者を対象として、比較的調査年度に近い時点で受給を開始したと考えられる者の性比を算出し、性比の経年変化の疾患別の特徴を示すと

ともに、全受給者ならびに性比の増加傾向の強い疾患について、受給継続期間別の性比を明らかにし、性比の増加に影響を及ぼしている要因について検討する。

方法

過去4回の医療受給者全国調査のリンケージデータ²⁾を利用し、全受給者ならびに疾患別の性比を算出する。また、それぞれの調査年度で、過去の調査で受給対象になっていない者を選択し、疾患毎に性比を算出する（表1）。また、性比の増大が観察された疾患（全身性エリテマトーデス、サルコイドーシス、強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎、潰瘍性大腸炎、大動脈炎症候群、天疱瘡、クローン病、悪性関節リウマチ、後縦靭帯骨化症、ウエグナー肉芽腫症の10疾患）については年齢階級別の性比を算出した。さらに、過去4回の調査のうち4回継続受給者、3回継続受給者、2回継続受給者、1回のみ受給者について、疾患毎に性比を算出し、疾患毎の継続期間と性比の関係を明らかにする（表2）。リンケージデータから推計された性別疾患別の受給継続率³⁾を、受給年度別に比較した。

表1 解析対象者（過去の調査で受給対象になっていない者）

84年度	88年度	92年度	97年度	人数
●	→	→	→	104,771人 (26疾患)
	●	→	→	101,262人 (30疾患)
		●	→	119,121人 (34疾患)
			●	222,418人 (39疾患)

表2 解析対象者（継続期間別）

84年度	88年度	92年度	97年度	
●	→	→	→	4回継続受給者
●	→	→		
●	→	→		3回継続受給者
	●	→		
●	→			2回継続受給者
	●	→		
●		●	→	1回のみ受給者
	●	●	→	

結果

各調査年度の性別疾患別の受給者数、性比を示す（表3、4）。各年度の受給者数（性比：男／女）は84年度の104,771人（0.47）から、88年度は173,637人（0.57）、92年度は247,726人（0.60）、97年度には399,719人（0.66）に達している。

疾患別には、男ではパーキンソン病、ビュルガー病、潰瘍性大腸炎、クローン病、後縦靭帯骨化症が多い。女では、全身性エリテマトーデス、パーキンソン病、潰瘍性大腸炎、特発性血小板減少性紫斑病が多い。1984年度から性比が1をこえている疾患は、ビュルガー病（7.82）、特発性拡張型心筋症（1.88）、クローン病（1.47）、筋萎縮性側索硬化症（1.44）、後縦靭帯骨化症（1.38）、ハンチントン舞踏病（1.14）、赤髄小脳変性症

（1.03）であり、ハンチントン舞踏病を除き、すべて1997年度まで性比が高い。さらに、潰瘍性大腸炎、劇症肝炎は性比が高くなり1997年には1.02、1.07と1をこえた。1988年以後の受給対象疾患では、シャイ・ドレガー症候群、脊柱管狭窄症、重

症急性膵炎、特発性大腿骨頭壊死症、原発性免疫不全症候群、特発性間質性肺炎が1をこえている。性比が低い疾患としては、全身性エリテマトーデス、大動脈炎症候群、原発性胆汁性肝硬変、混合性結合組織病である。

1984年度、88年度、92年度、97年度の4回の調査時に、過去の調査で受給対象になっていない者の調査年度別の性比は、受給者全体で0.47から0.77と高くなっている。疾患毎には、全身性エリテマトーデスが0.07から0.15、潰瘍性大腸炎が0.68から1.12、悪性関節リウマチが0.17から0.44と年度を追う毎に高くなっている（表5）。年齢階級別には、0-19歳は、潰瘍性大腸炎、全身性エリテマトーデスを除きどの疾患も受給者数が少ないため、性比のばらつきが大きく、一定の傾向は見られない。20-39歳では、全身性エリテマトーデス、サルコイドーシス、強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎、潰瘍性大腸炎、大動脈炎症候群では、年度を追うに従い性比は高くなっている。40-59歳では、全身性エリテマトーデス、サルコイドーシス、潰瘍性大腸炎、大動脈炎症候群、悪性関節リウマチ、後縦靭帯骨化症で年度を追うに従い、性比が高くなっている（表6-1～6-4）。

表3 年度別性別受給者数、疾患別

疾患名	1984年		1988年		1992年		1997年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1 ベーチェット病	3,083	4,866	4,645	6,457	5,640	7,769	6,904	9,383
2 多発性硬化症	470	1,269	883	2,027	1,324	2,855	2,198	4,761
3 重症筋無力症	1,230	3,288	1,912	4,574	2,517	5,796	3,491	7,727
4 全身性エリテマトーデス	1,203	17,312	2,094	25,268	3,023	32,652	4,271	40,838
5 スモン	488	1,731	504	1,722	454	1,556	460	1,568
6 再生不良性貧血	1,844	2,882	2,635	3,734	3,213	4,432	3,905	5,603
7 サルコイドーシス	883	2,750	1,815	4,427	2,974	6,772	5,087	10,952
8 筋萎縮性側索硬化症	906	630	1,539	968	1,962	1,131	2,958	1,826
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	1,118	6,375	2,124	9,686	3,083	14,074	4,592	19,966
10 特発性血小板減少性紫斑病	2,454	5,455	4,299	9,286	5,944	13,638	8,732	20,072
11 結節性動脈周囲炎	389	482	462	618	666	885	1,106	1,416
12 潰瘍性大腸炎	3,711	5,482	8,623	9,826	14,557	15,307	26,365	25,896
13 大動脈炎症候群	192	2,794	271	3,620	308	4,110	389	4,601
14 ビュルガー病	4,197	537	6,990	823	8,464	1,059	9,174	1,189
15 天疱瘡	273	572	502	861	715	1,187	1,125	1,717
16 脊髄小脳変性症	1,913	1,853	3,946	3,671	5,499	5,176	8,279	7,866
17 クローン病	1,297	881	3,165	1,767	5,990	2,908	10,675	4,901
18 劇症肝炎	196	209	334	342	336	345	435	407
19 悪性関節リウマチ	419	2,435	716	3,312	942	3,611	1,277	4,049
20 パーキンソン病	4,644	7,161	8,213	12,273	10,837	16,368	19,145	28,086
21 アミロイドーシス	107	142	186	210	249	284	336	433
22 後縦靭帯骨化症	1,425	1,036	3,563	2,054	6,178	3,501	10,817	5,648
23 ハンチントン舞踏病	112	98	137	156	167	197	243	264
24 ウィリス動脈輪閉塞症	505	836	1,050	1,726	1,561	2,693	2,440	4,283
25 ウェゲナー肉芽腫症	51	84	136	181	198	261	327	393
26 特発性拡張型心筋症	327	174	1,775	764	3,279	1,317	6,809	2,638
27 シャイ・ドレーガー症候群			180	69	275	83	431	153
28 表皮水疱症			100	93	131	136	150	163
29 膿疱性乾癬			127	139	260	294	491	504
30 広範脊柱管狭窄症			48	9	332	130	841	335
31 原発性胆汁性肝硬変					303	2,635	912	7,408
32 重症急性膵炎					351	125	969	365
33 特発性大腿骨頭壊死症					1,490	597	4,364	2,191
34 混合性結合組織病					29	390	318	3,689
35 原発性免疫不全症候群							789	368
36 特発性間質性肺炎							1,511	849
37 網膜色素変性症							6,369	8,267
38 クロイツフェルト・ヤコブ病							56	107
39 原発性肺高血圧症							25	71
全受給者	33,437	71,334	62,974	110,663	93,251	154,274	158,766	240,953

表4 年度別受給者の性比（男／女）、疾患別

疾患名	1984年	1988年	1992年	1997年
1 ベーチェット病	0.63	0.72	0.73	0.74
2 多発性硬化症	0.37	0.44	0.46	0.46
3 重症筋無力症	0.37	0.42	0.43	0.45
4 全身性エリテマトーデス	0.07	0.08	0.09	0.10
5 スモン	0.28	0.29	0.29	0.29
6 再生不良性貧血	0.64	0.71	0.72	0.70
7 サルコイドーシス	0.32	0.41	0.44	0.46
8 筋萎縮性側索硬化症	1.44	1.59	1.73	1.62
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.18	0.22	0.22	0.23
10 特発性血小板減少性紫斑病	0.45	0.46	0.44	0.44
11 結節性動脈周囲炎	0.81	0.75	0.75	0.78
12 潰瘍性大腸炎	0.68	0.88	0.95	1.02
13 大動脈炎症候群	0.07	0.07	0.07	0.08
14 ビュルガー病	7.82	8.49	7.99	7.72
15 天疱瘡	0.48	0.58	0.60	0.66
16 脊髄小脳変性症	1.03	1.07	1.06	1.05
17 クロウン病	1.47	1.79	2.06	2.18
18 劇症肝炎	0.94	0.98	0.97	1.07
19 悪性関節リウマチ	0.17	0.22	0.26	0.32
20 パーキンソン病	0.65	0.67	0.66	0.68
21 アミロイドーシス	0.75	0.89	0.88	0.78
22 後縦靭帯骨化症	1.38	1.73	1.76	1.92
23 ハンチントン舞踏病	1.14	0.88	0.85	0.92
24 ウィリス動脈輪閉塞症	0.60	0.61	0.58	0.57
25 ウェゲナー肉芽腫症	0.61	0.75	0.76	0.83
26 特発性拡張型心筋症	1.88	2.32	2.49	2.58
27 シャイ・ドレーガー症候群		2.61	3.31	2.82
28 表皮水疱症		1.08	0.96	0.92
29 膿疱性乾癬		0.91	0.88	0.97
30 広範脊柱管狭窄症		5.33	2.55	2.51
31 原発性胆汁性肝硬変			0.11	0.12
32 重症急性膵炎			2.81	2.65
33 特発性大腿骨頭壊死症			2.50	1.99
34 混合性結合組織病			0.07	0.09
35 原発性免疫不全症候群				2.14
36 特発性間質性肺炎				1.78
37 網膜色素変性症				0.77
38 クロイツフェルト・ヤコブ病				0.52
39 原発性肺高血圧症				0.35
全受給者	0.47	0.57	0.60	0.66

表5 過去の調査時に受給対象となっていない者の性比、調査年度別、疾患別

疾患名	1984年	1988年	1992年	1997年	97年度性比/84年度性比
1 ベーチェット病	0.63	0.87	0.81	0.81	1.29
2 多発性硬化症	0.37	0.50	0.52	0.50	1.35
3 重症筋無力症	0.37	0.51	0.53	0.52	1.40
4 全身性エリテマトーデス	0.07	0.11	0.13	0.15	2.14
5 スモン	0.28	0.38	0.38	0.40	1.43
6 再生不良性貧血	0.64	0.86	0.87	0.77	1.20
7 サルコイドーシス	0.32	0.54	0.54	0.55	1.72
8 筋萎縮性側索硬化症	1.44	1.56	1.72	1.53	1.06
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.18	0.29	0.27	0.28	1.60
10 特発性血小板減少性紫斑病	0.45	0.54	0.53	0.53	1.18
11 結節性動脈周囲炎	0.81	0.89	0.84	0.86	1.07
12 潰瘍性大腸炎	0.68	1.04	1.09	1.12	1.65
13 大動脈炎症候群	0.07	0.11	0.10	0.14	2.04
14 ピュルガ一病	7.82	8.69	7.05	6.68	0.85
15 天疱瘡	0.48	0.77	0.65	0.74	1.55
16 脊髄小脳変性症	1.03	1.13	1.12	1.09	1.06
17 クローン病	1.47	2.01	2.32	2.31	1.57
18 劇症肝炎	0.94	1.02	1.06	1.21	1.29
19 悪性関節リウマチ	0.17	0.28	0.36	0.44	2.56
20 パーキンソン病	0.65	0.70	0.71	0.73	1.13
21 アミロイドーシス	0.75	0.98	0.87	0.82	1.09
22 後縦靭帯骨化症	1.38	1.96	1.91	2.10	1.53
23 ハンチントン舞蹈病	1.14	0.73	0.86	1.07	0.94
24 ウィリス動脈輪閉塞症	0.60	0.62	0.58	0.57	0.94
25 ウェゲナー肉芽腫症	0.61	0.78	0.78	1.00	1.65
26 特発性拡張型心筋症	1.88	2.36	2.72	2.68	1.43
27 シャイ・ドレーガー症候群		2.61	3.41	2.79	
28 表皮水疱症		1.08	0.83	0.93	
29 膿疱性乾癬		0.91	0.91	1.08	
30 広範脊柱管狭窄症		5.33	2.38	2.47	
31 原発性胆汁性肝硬変			0.11	0.13	
32 重症急性膵炎			2.81	2.65	
33 特発性大腿骨頭壊死症			2.50	1.94	
34 混合性結合組織病			0.07	0.09	
35 原発性免疫不全症候群				2.14	
36 特発性間質性肺炎				1.78	
37 網膜色素変性症				0.77	
38 クロイツフェルト・ヤコブ病				0.52	
39 原発性肺高血圧症				0.35	
全受給者	0.47	0.71	0.73	0.77	1.64

表6-1 過去の調査時に受給対象となっていない者の性比
調査年度別(0-19歳)

年齢階級	84年度	88年度	92年度	97年度
全身性エリテマトーデス	0.16	0.15	0.16	0.20
サルコイドーシス	0.85	0.80	0.76	0.76
強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.60	0.70	0.56	0.64
潰瘍性大腸炎	0.62	1.35	1.49	1.23
大動脈炎症候群	0.19	0.15	0.15	0.20
天疱瘡	1.14	0.50	1.75	1.67
クローン病	1.81	2.07	1.96	1.93
悪性関節リウマチ	0.77	0.18	1.50	0.33
後縦靭帯骨化症	-	-	1.00	2.00
ウェゲナー肉芽腫症	1.50	0.57	0.38	0.88

表6-3 過去の調査時に受給対象となっていない者の性比
調査年度別(40-59歳)

年齢階級	84年度	88年度	92年度	97年度
全身性エリテマトーデス	0.05	0.09	0.11	0.12
サルコイドーシス	0.20	0.34	0.36	0.36
強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.14	0.24	0.22	0.22
潰瘍性大腸炎	0.75	0.91	0.95	1.02
大動脈炎症候群	0.07	0.11	0.12	0.17
天疱瘡	0.40	0.66	0.61	0.69
クローン病	0.82	1.47	1.35	1.51
悪性関節リウマチ	0.15	0.24	0.29	0.34
後縦靭帯骨化症	1.09	1.67	1.67	1.71
ウェゲナー肉芽腫症	0.48	0.79	0.73	1.21

表6-2 過去の調査時に受給対象となっていない者の性比
調査年度別(20-39歳)

年齢階級	84年度	88年度	92年度	97年度
全身性エリテマトーデス	0.07	0.09	0.11	0.11
サルコイドーシス	0.60	1.08	1.18	1.40
強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.15	0.22	0.27	0.29
潰瘍性大腸炎	0.64	1.11	1.13	1.15
大動脈炎症候群	0.05	0.10	0.07	0.10
天疱瘡	0.44	0.75	0.45	0.87
クローン病	1.80	2.34	2.98	2.93
悪性関節リウマチ	0.09	0.24	0.21	0.37
後縦靭帯骨化症	1.05	1.77	2.31	1.85
ウェゲナー肉芽腫症	0.69	1.03	0.83	0.78

表6-4 過去の調査時に受給対象となっていない者の性比
調査年度別(60歳-)

年齢階級	84年度	88年度	92年度	97年度
全身性エリテマトーデス	0.12	0.23	0.30	0.33
サルコイドーシス	0.15	0.25	0.27	0.26
強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.27	0.37	0.33	0.32
潰瘍性大腸炎	0.22	0.84	0.64	1.13
大動脈炎症候群	0.10	0.15	0.12	0.15
天疱瘡	0.64	0.92	0.76	0.74
クローン病	0.61	0.78	1.16	0.91
悪性関節リウマチ	0.23	0.35	0.46	0.54
後縦靭帯骨化症	2.00	2.34	2.16	2.41
ウェゲナー肉芽腫症	0.70	0.59	0.94	0.92

考 察

が0.34と低く、3回、2回、1回と受給継続期間が短くなると性比は高くなる。継続期間が同じ集団における初めて受給対象となった年度別の性比は、継続期間3回の場合には、84年0.48から88年0.58と高くなり、継続期間2回では84年より88年の方が高いが92年には低くなっている。1回のみ受給者では、92年までは、0.65、0.91、0.92と年度を追う毎に高くなっているが、97年には0.77と低くなる（表7）。疾患別にもほぼ同じような傾向が見られるが、筋萎縮性側索硬化症、クローン病、悪性関節リウマチ、特発性拡張型心筋症の受給継続期間2回の受給者と、悪性関節リウマチの1回のみ受給者では、初めて受給対象となった年度が新しくなるほど性比が高くなっている。

受給者の性別継続率は、13年の平均受給継続率ではピュルガー病、筋萎縮性側索硬化症を除き、いずれの疾患も男の平均受給継続率が女よりも低く、継続者がおよそ半分に減少する年数は男が8年であるのに対して女は12年であった（表8-1）。それに対して、1985年以降に受給対象となった疾患の平均受給継続率をみると、9年では、広範性脊柱管狭窄症を除く疾患で男の方が女よりも高く、5年では原発性胆汁性肝硬変を除き、男の方が女よりも高くなっており、男の方が受給継続率が高い疾患が多い（表8-2）。性比の増加が見られる疾患では、クローン病は男女の継続率はほぼ等しかったが、他の9疾患（全身性エリテマトーデス、サルコイドーシス、強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎、潰瘍性大腸炎、大動脈炎症候群、天疱瘡、悪性関節リウマチ、後縦靭帯骨化症、ウエゲナー肉芽腫症）では、いずれも男の継続率が女よりも低い（表8-1）。

特定疾患医療受給者調査のリンケージデータを用いて、疾患別の性比の推移と受給継続率を観察した。過去の調査時に受給していない者、つまり古くから受給している者を除いた場合の性比は、年度を追う毎に高くなっており、また、受給継続期間が長い者ほど性比が低い傾向が見られ、新しく受給対象になった者では性比が高いというこれまでの結果を支持する結果が得られた。しかし、受給継続期間がほぼ同じ対象者についてみると、92年度以降の受給対象者では性比が上昇しない疾患もあり、性比の変化に疾患毎の特徴が見られた。

特定疾患全体として性比が高くなってきた要因としては、潰瘍性大腸炎、全身性エリテマトーデスなどの受給者数の多い疾患で性比の増加が顕著であることや、特発性拡張型心筋症、大腿骨頭壊死症など性比の高い疾患の追加、さらにここでは検討していないが、医療制度の改革（老人、本人の自己負担率の増加等）、この制度に関する知識の普及が考えられる。また、1985年度以降受給対象となった疾患は、男の受給継続率が女よりも高く性比を高くする原因となっている。

特に疾患別に、性比が高くなっている疾患としては、クローン病、特発性拡張型心筋症のように性比がもともと高い疾患、全身性エリテマトーデス、悪性関節リウマチ、大動脈炎症候群などのように性比のもともと低い疾患など様々のものがあり、疾患によって性比を高くする要因が異なっていると考えられる。これらの性比の増大が、制度上の問題、診断技術の進歩や普及を含む、社会的な要因に基づくものか、純粋に男の罹患率が増加したことによるものなのかは今回の検討からは不明である。今後、性比が高くなっている疾患については性別の罹患状況や危険因子曝露状況の変化、臨床像の性差について詳細に検討する必要がある。

表7 受給継続回数別の継続開始年度別性比

受給継続回数	継続開始年度別性比			
	84年	88年	92年	97年
4回	0.34			
3回	0.48	0.58		
2回	0.58	0.77	0.64	
1回	0.65	0.91	0.92	0.77

表 8-1 受給者の性別継続率、疾患別

		受給継続率													
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(年)
ベーチェット病	男	1	0.945	0.893	0.844	0.797	0.764	0.734	0.706	0.679	0.655	0.633	0.612	0.591	0.571
	女	1	0.951	0.904	0.860	0.818	0.788	0.761	0.735	0.710	0.687	0.666	0.646	0.626	0.607
多発性硬化症	男	1	0.916	0.839	0.769	0.705	0.656	0.615	0.577	0.541	0.510	0.483	0.458	0.434	0.411
	女	1	0.930	0.864	0.804	0.748	0.707	0.671	0.636	0.603	0.573	0.543	0.516	0.489	0.464
重症筋無力症	男	1	0.925	0.856	0.793	0.734	0.689	0.650	0.614	0.579	0.547	0.518	0.491	0.465	0.440
	女	1	0.942	0.888	0.837	0.789	0.754	0.723	0.694	0.665	0.638	0.614	0.591	0.568	0.547
全身性エリテマトーデス	男	1	0.934	0.873	0.815	0.762	0.721	0.686	0.652	0.620	0.590	0.561	0.533	0.507	0.482
	女	1	0.956	0.914	0.874	0.835	0.806	0.780	0.756	0.732	0.708	0.686	0.665	0.644	0.625
スモン	男	1	0.936	0.876	0.820	0.767	0.728	0.693	0.659	0.627	0.597	0.568	0.541	0.515	0.490
	女	1	0.942	0.888	0.837	0.789	0.756	0.726	0.698	0.670	0.646	0.623	0.601	0.580	0.559
再生不良性貧血	男	1	0.886	0.785	0.696	0.617	0.558	0.508	0.461	0.420	0.385	0.355	0.327	0.301	0.278
	女	1	0.912	0.833	0.760	0.694	0.645	0.603	0.563	0.527	0.494	0.465	0.438	0.412	0.388
サルコイドーシス	男	1	0.902	0.813	0.734	0.662	0.611	0.571	0.533	0.498	0.465	0.437	0.410	0.384	0.360
	女	1	0.937	0.879	0.824	0.772	0.732	0.696	0.662	0.629	0.599	0.572	0.546	0.521	0.497
筋萎縮性側索硬化症	男	1	0.788	0.621	0.489	0.386	0.326	0.287	0.252	0.222	0.197	0.177	0.160	0.144	0.129
	女	1	0.763	0.583	0.446	0.341	0.283	0.245	0.212	0.184	0.163	0.148	0.135	0.123	0.112
強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	男	1	0.907	0.823	0.747	0.678	0.624	0.579	0.537	0.497	0.463	0.432	0.403	0.376	0.351
	女	1	0.939	0.882	0.829	0.778	0.738	0.702	0.669	0.637	0.606	0.576	0.547	0.520	0.494
特発性血小板減少性紫斑病	男	1	0.849	0.721	0.613	0.521	0.459	0.411	0.368	0.329	0.298	0.271	0.246	0.223	0.203
	女	1	0.909	0.827	0.753	0.685	0.635	0.595	0.557	0.521	0.490	0.463	0.438	0.414	0.392
結節性動脈周囲炎	男	1	0.880	0.778	0.689	0.612	0.562	0.518	0.477	0.440	0.405	0.371	0.340	0.311	0.285
	女	1	0.914	0.837	0.766	0.703	0.660	0.625	0.591	0.560	0.528	0.500	0.474	0.449	0.425
潰瘍性大腸炎	男	1	0.930	0.865	0.805	0.749	0.708	0.677	0.646	0.617	0.592	0.570	0.549	0.529	0.510
	女	1	0.940	0.883	0.830	0.780	0.744	0.713	0.684	0.657	0.631	0.609	0.587	0.566	0.546
大動脈炎候群	男	1	0.913	0.834	0.763	0.697	0.656	0.620	0.587	0.555	0.528	0.507	0.487	0.468	0.449
	女	1	0.950	0.902	0.857	0.814	0.782	0.752	0.723	0.695	0.670	0.646	0.623	0.601	0.579
ビュルガー病	男	1	0.934	0.873	0.815	0.762	0.721	0.686	0.653	0.621	0.592	0.565	0.539	0.514	0.491
	女	1	0.931	0.868	0.809	0.753	0.710	0.671	0.635	0.600	0.566	0.535	0.505	0.477	0.450
天疱瘡	男	1	0.911	0.831	0.758	0.692	0.643	0.602	0.564	0.528	0.495	0.468	0.442	0.418	0.395
	女	1	0.927	0.860	0.797	0.739	0.694	0.653	0.616	0.580	0.546	0.513	0.482	0.453	0.426
腎臓小動脈性症	男	1	0.880	0.775	0.682	0.601	0.538	0.484	0.436	0.393	0.356	0.327	0.301	0.276	0.254
	女	1	0.894	0.800	0.715	0.640	0.580	0.530	0.484	0.442	0.405	0.373	0.344	0.318	0.293
クローン病	男	1	0.945	0.892	0.843	0.796	0.761	0.735	0.709	0.684	0.660	0.636	0.613	0.591	0.569
	女	1	0.946	0.894	0.846	0.800	0.766	0.738	0.710	0.684	0.660	0.639	0.618	0.598	0.578
劇症肝炎	男	1	0.604	0.367	0.225	0.139	0.100	0.081	0.066	0.055	0.049	0.046	0.043	0.041	0.039
	女	1	0.683	0.470	0.325	0.226	0.180	0.155	0.135	0.118	0.109	0.105	0.100	0.096	0.093
慢性関節リウマチ	男	1	0.872	0.761	0.664	0.579	0.514	0.458	0.408	0.363	0.321	0.278	0.241	0.209	0.181
	女	1	0.899	0.808	0.726	0.652	0.594	0.543	0.495	0.452	0.415	0.381	0.350	0.321	0.295
パーキンソン病	男	1	0.878	0.771	0.677	0.595	0.528	0.470	0.418	0.372	0.330	0.291	0.258	0.228	0.201
	女	1	0.896	0.803	0.720	0.646	0.587	0.536	0.490	0.448	0.407	0.369	0.335	0.304	0.276
アミロイドーシス	男	1	0.788	0.621	0.491	0.388	0.311	0.252	0.204	0.166	0.135	0.116	0.100	0.086	0.074
	女	1	0.808	0.654	0.530	0.430	0.371	0.331	0.294	0.262	0.238	0.223	0.208	0.195	0.182
後縦靭帯骨化症	男	1	0.892	0.796	0.711	0.635	0.578	0.532	0.490	0.451	0.413	0.376	0.343	0.312	0.284
	女	1	0.909	0.827	0.752	0.684	0.633	0.593	0.555	0.520	0.486	0.454	0.425	0.397	0.372
ハンチントン舞蹈病	男	1	0.850	0.723	0.614	0.522	0.441	0.372	0.313	0.264	0.222	0.188	0.160	0.135	0.115
	女	1	0.867	0.752	0.652	0.566	0.491	0.421	0.361	0.310	0.272	0.246	0.222	0.200	0.181
ウィルス動脈輪の蓄積	男	1	0.940	0.884	0.831	0.781	0.741	0.703	0.667	0.633	0.602	0.571	0.542	0.514	0.488
	女	1	0.947	0.896	0.849	0.804	0.770	0.742	0.715	0.690	0.666	0.644	0.623	0.603	0.583
ウェグナー肉芽腫症	男	1	0.907	0.823	0.747	0.677	0.617	0.566	0.519	0.477	0.435	0.395	0.359	0.325	0.295
	女	1	0.923	0.852	0.786	0.726	0.683	0.646	0.612	0.579	0.546	0.509	0.475	0.443	0.413
特発性拡張型心筋症	男	1	0.885	0.784	0.695	0.617	0.556	0.503	0.455	0.411	0.372	0.339	0.309	0.281	0.256
	女	1	0.894	0.801	0.718	0.644	0.589	0.542	0.500	0.460	0.427	0.409	0.391	0.374	0.358

表 8-2 受給者の性別継続率、疾患別

		受給継続率									
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9(年)
シャイ・ドレーガー症候群	男	1	0.731	0.535	0.391	0.286	0.212	0.157	0.116	0.086	0.064
	女	1	0.719	0.518	0.373	0.270	0.196	0.138	0.098	0.069	0.048
表皮水疱症	男	1	0.945	0.893	0.843	0.797	0.753	0.711	0.671	0.634	0.598
	女	1	0.934	0.872	0.814	0.760	0.698	0.631	0.571	0.517	0.468
感音性聴覚	男	1	0.944	0.891	0.841	0.793	0.755	0.729	0.703	0.678	0.655
	女	1	0.926	0.857	0.794	0.735	0.698	0.674	0.651	0.630	0.608
広範脊柱管狭窄症	男	1	0.902	0.814	0.734	0.662	0.599	0.556	0.517	0.480	0.446
	女	1	0.901	0.812	0.731	0.659	0.597	0.555	0.516	0.479	0.445
原発性胆汁性肝硬変	男	1	0.939	0.882	0.829	0.779	0.731				
	女	1	0.941	0.886	0.834	0.785	0.739				
重症急性膵炎	男	1	0.703	0.494	0.348	0.244	0.172				
	女	1	0.679	0.461	0.313	0.213	0.144				
特発性大腿骨頭壊死症	男	1	0.908	0.824	0.748	0.679	0.616				
	女	1	0.904	0.817	0.739	0.668	0.603				
混合型結合組織病	男	1	0.966	0.934	0.902	0.872	0.842				
	女	1	0.965	0.931	0.898	0.866	0.835				